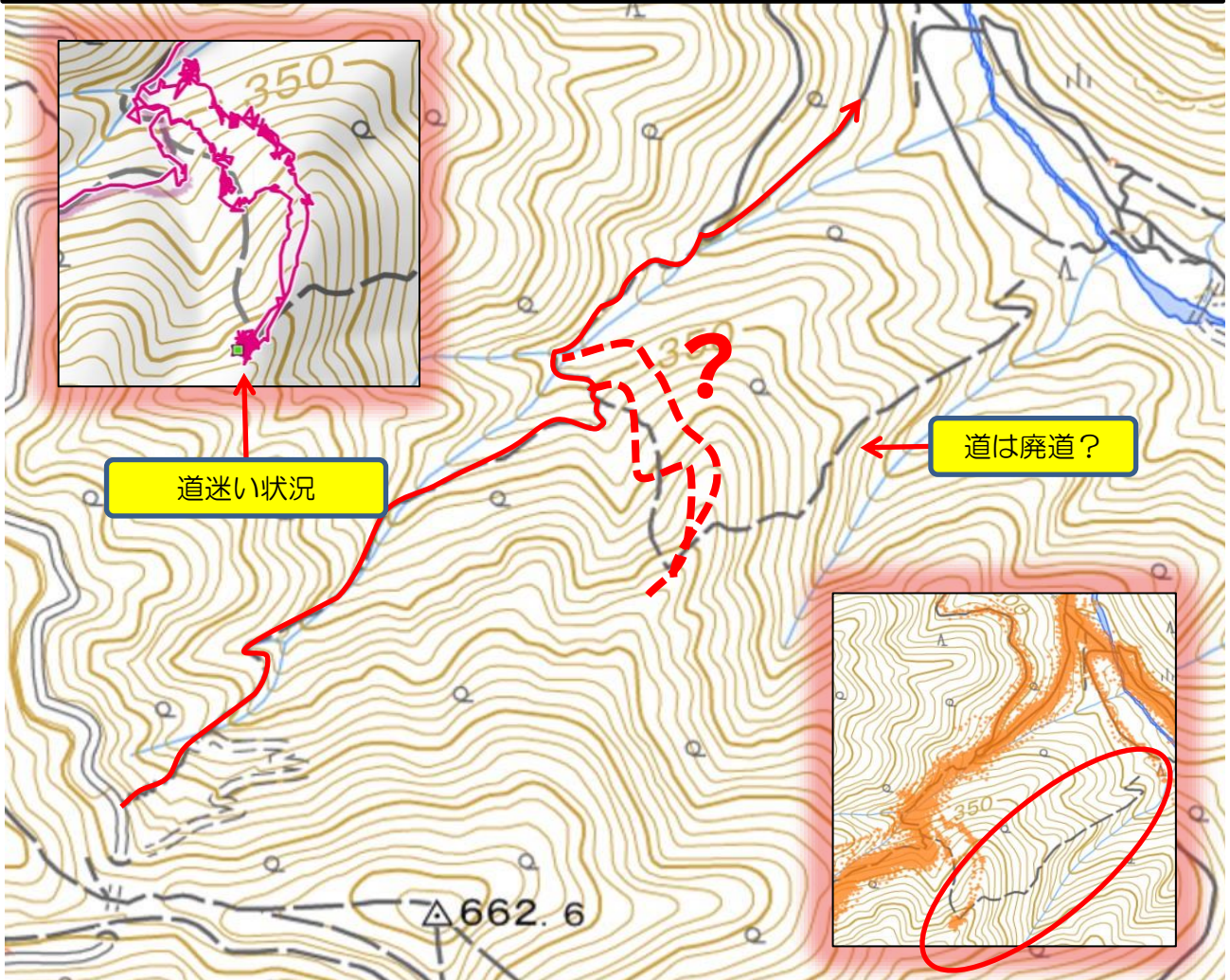


## 湯河原城山遭難(2024年5月)

渡渉箇所が分からず、地図に別の登山道が書いてあるので登ることに。しかし、道が分からず110番をして事なきを得た。



## 解説

頼朝公が合戦で敗れて避難した「しとどの窟」を見学した後、案内図でも「急」と書かれている湯河原梅林への路を下り始めましたが、途中で渡渉箇所が判らず道迷いをしてしまいました。そもそもこの下山道が『みんなの足跡』ですと沢の中を歩いているようなプロットになっていたのですが、実際後でレスキューの方に伺ってみるとそんなことは無く、きちんと路が沢の脇についていたそうです。その間違いで疲労が蓄積したのか、渡渉箇所を見落としてしまったようです。

迷い込んだ沢から必死で登り返しましたが、トラバースして戻るルートは見つけられず、古い山道が描かれている尾根まで登りました。しかし、実際には路型が付いておらず、そこでギブアップして救援をお願いしました。(HP参照)

渡渉箇所が分からず、違う道で下山しようとするも、道がなかった。地図の道は信用できないという事例になってしまった。この方は、ヤマレコの地図アプリが使われていたので、「みんなの足跡」を見ることができていた。地図の登山道に足跡が無かったことは不思議に思わなかったのだろうか？道迷いは冷静さを失うため後から考えると「なぜ、あの時、こんな行動をとってしまったのか？」と思うことが多い。気を付けたい。